

2022 年度甲南大学女子陸上競技部のチーム作りについて

伊 東 浩 司*

Team building for the 2022 Konan University Women's Track and Field Club

Koji Ito

キーワード：大学スポーツ，課外活動，チームビルディング

1) はじめに

甲南大学陸上競技部は、1923年に創部された甲南学園最古のクラブである。女子陸上部競技部（以下、女子陸上部）は、筆者が甲南大学（以下、本学）に着任した翌年2002年度から、既存の陸上競技部女子部員（以下、女子部員）3名と新入生3名で、活動開始した。甲南学園で一番歴史があるクラブで、過去に素晴らしい活動実績などがあるが、施設・学生活動支援面などの整備が遅れていることなどもあり、女子部員には決して満足できる環境で活動を行うことができなかった。その決して満足できる環境ではないなか、日々の活動を工夫しながら、表5のとおり、リレー種目などで常に関西学生陸上競技対校選手権（以下、関西インカレ）で上位入賞を果たしてくれている。そのような状況下、2017年度、本学陸上競技部の卒業生団体の秀峰会の方針で、本学の課外活動団体として、男女全く別の団体にすべく本学学生部に陳情があった。その後、本学での所定の手続きを経て、2018年度から、本学の新たな課外活動団体として女子陸上部の活動が開始した。今年度（2022年）で5年目を迎え、本学のスポーツ強化指定団体（以下、強化指定）として活動している女子陸上部の取り組みを紹介したいと考える。

2) 女子陸上競技部

本学陸上競技部は、1923年創部学園最古のクラブである。筆者は、2002年度から同部の女子部員のコーチングを始めた。開始当初は、既存の女子部員3名に、新入生3名を加えた計6名でスタートした。それ以降、表5のとおり関西インカレ1600mリレー5年連続優勝などの実績を積み上げていった。2017年度、本学陸上競技部の卒業生団体秀峰会の方針で、男女全く別の課外活動団体にすべく学生部への陳情、本学陸上競技部員への調査、リーダーズキャンプにて承認されたことにより、2018年度より女子陸上部となり、本学の課外活動団体の規則として必須の部別・卒業生団体（以下、OG会）ができた。それ以降も、これまでどおり、全国・関西各種大会で入賞を果たすことができ、2018年アジア選手権、2021年には、オリンピックに日本代表として出場する選手も誕生もしている。また、男女別の課外活動団体になっても引き続き、本学の強化指定として選んでいただいている。現在の部員数など女子陸上部の活動現状は表1のとおりで、筆者が本学に赴任して以降の女子部員の主な成績は表2のとおりである。

*甲南大学 全学共通教育センター／スポーツ・健康科学教育研究センター兼任研究員

表1 女子陸上部の活動現状

部員数	35名
学年別部員数	4年生 8名 3年生 8名 2年生 7名 1年生 13名
学部別	経営学部 19名 文学部 10名 法学部 3名 経済学部 2名 知能情報学部 1名
活動時間	授業期間中(平日) 17時から21時まで 授業期間(祝・休日)・休業期間 9時から13時まで 週5回
場所	本学六甲アイランド体育施設陸上競技場

表2 全国大会最高順位(2002年～2021年度)

大会名など	実績
日本選手権	100m 6位(2018) 200m 6位(2016) 100m H2位(2015) 400m H4位(2006) 400m R3位(2011・15・16) 1600m R4位(2005) 60m 1位(2022年) 60m ハードル 2位(2022年)
日本インカレ	100m 2位(2011) 200m 3位(2006) 100m H2位(2015) 400m H3位(2006) 400m R2位(2011・2020) 1600m R4位(2007・2014)
日本学生個人 部内最高記録	100m 1位(2018) 200m 3位(2015) 400m 4位(2004/5/7) 100m H2位(2015) 400m H2位(2018) 100m 11秒57 2021年 200m 23秒73 2021年 400m 55秒18 2014年 100m H 13秒30 2015 400m H 58秒74 2006年 400m R 44秒98(2017年) 600m R 3分39秒80(2015年)
国際大会	オリンピック(2021年) アジア選手権(2018) など
他	U20日本選手権 100m 1位(2016) 2020U20200m 1位(2020)

2-2 KONAN SPORTS 強化指定団体制度

本学の強化指定団体制度が2007年度から第1期がスタートし、2021年度までで第4期が終了している。2022年度からは、2021年度に策定された、本学スポーツ強化支援の基本方針に基づき、公募が開始され、関係書類・プレゼン資料提出して、プレゼンを実施した。その結果、引き続き、第5期強化指定団体に選定された。

表3 KONAN SPORTS 強化指定団体制度の流れ

2004～2006年	スポーツ強化助成
2007～2008年	第1期
2009～2013年	第2期
2014～2017年	第3期
2018～2021年	第4期
2022～2025年	第5期

3) 2022年度女子陸上部の取り組み

2020年3月4日、コロナ禍の影響もあり、本学の課外活動が禁止になった。そこから約6カ月課外活動ができず、再開になっても、直ぐに課外活動禁止が何度か繰り返された。本学スポーツ・健康科学教育研究センター紀要第23号「課外活動禁止期間におけるトレーニング環境に対する影響について」(伊東2020)で述べているように、女子部員の活動も試行錯誤の連続であった。特に、現在の3年生は、入学式が中止と

同時に本学の敷地に入ることすら許されず、授業もWEBを活用したものなどになり、トレーニングも入学と同時にコーチングができない状況でのスタートであった。そのような状況下、女子部員の2022年度スタートは、コロナの陽性者や体調不良者が出るたびに、活動状況・濃厚接触の該当者有無、マスク着用・一定の距離をとっての活動など、神経を使う日々が続いた。しかし、3年ぶりに西日本学生が開催されたように、中止・延期になる競技会は少なくなり、感染症対策を行った上でコロナ禍前と同じように競技会が開催されるようになった。女子陸上部としても、コロナ禍での経験を活かしつつ新たな取り組みを実施した。その結果、日本選手権400mリレー優勝をはじめ、表4のように、ショートスプリントでの活躍ができたことにつながった新たな取り組みを紹介してきた。

3-1 競技成績

女子陸上部の主な2022年度競技成績は、表4のとおりである。日本選手権400mリレーの優勝など、ショートスプリント(100/200m)を中心に一定の成果をおさめることができた。



図1 2022 年度 日本選手権リレーの表彰式の模様（出典：女子陸上部 Twitter より）

表4 2022 年女子陸上部主な成績

競技会名	競技成績
日本選手権	100m 5 位 200m 8 位 400m リレー 1 位 60m 1 位 60m ハードル 2 位
U20 日本選手権	100m 4 位 200m 1 位 走高跳 6 位
日本インカレ	100m 4 位 200m 2・5 位 400m 7 位 1600m リレー 8 位 走高跳 3・6 位
日本学生個人	100m 1 位 200m 3 位
日本学生ランキング 20 傑以内	100m 1・11・16 位 計 3 名 200m 2・6・9・13・19・20 位 計 6 名 400m 10 位 400m リレー 1 位 1600m リレー 8 位
国民体育大会	100m 4 位 300m 2 位 走高跳 5 位

表5 関西インカレ 女子陸上部リレー成績

年度	4 × 100m リレー 順位 記録	4 × 400m リレー 順位 記録
2002	7 位 48 秒 60	8 位 4 分 01 秒 81
2003	8 位 49 秒 58	5 位 3 分 56 秒 46
2004	1 位 49 秒 63	1 位 3 分 51 秒 01
2005	1 位 47 秒 12	1 位 3 分 45 秒 76
2006	2 位 46 秒 13	1 位 3 分 47 秒 84
2007	2 位 46 秒 50	1 位 3 分 45 秒 99
2008	3 位 48 秒 00	1 位 3 分 44 秒 54
2009	1 位 46 秒 59	決勝棄権
2010	1 位 46 秒 56	1 位 3 分 44 秒 03
2011	3 位 46 秒 63	4 位 3 分 46 秒 64
2012	1 位 46 秒 53	2 位 3 分 44 秒 28
2013	3 位 46 秒 90	4 位 3 分 46 秒 03
2014	1 位 45 秒 89	3 位 3 分 45 秒 28
2015	2 位 45 秒 36	2 位 3 分 39 秒 80
2016	2 位 45 秒 46	3 位 3 分 42 秒 49
2017	1 位 44 秒 98	3 位 3 分 44 秒 77
2018	1 位 45 秒 01	4 位 3 分 47 秒 08
2019	8 位 54 秒 91	4 位 3 分 44 秒 30
2020	1 位 45 秒 56	4 位 3 分 46 秒 48
2021	1 位 46 秒 05	4 位 3 分 48 秒 71
2022	1 位 45 秒 22	予選落ち

3-2 組織運営体制

これまででは、どこの課外活動の組織でもみられる主将・主務をそれぞれ1名配置して活動していたが、コロナ対策を含め、学内外の課外活動に関係する部署からの要求・提出物の量が多くなり、従来の組織体制では対応ができなくなることが多くなり、命令指揮系統にあたる幹部学生の負担が大きくなりすぎていることから、今年度から、部の幹部にあたる役職全て（主将・副将・主務・副務）を複数名体制にして、お互いをカバーするように変更した。この変更は、特定の部員への負担軽減、作業のミスを減らし、女子部員全員が役割を持つことで、一人ひとりが責任を持ってチームをつくるのが狙いでもあり、各学年にリーダーも置くことにした。

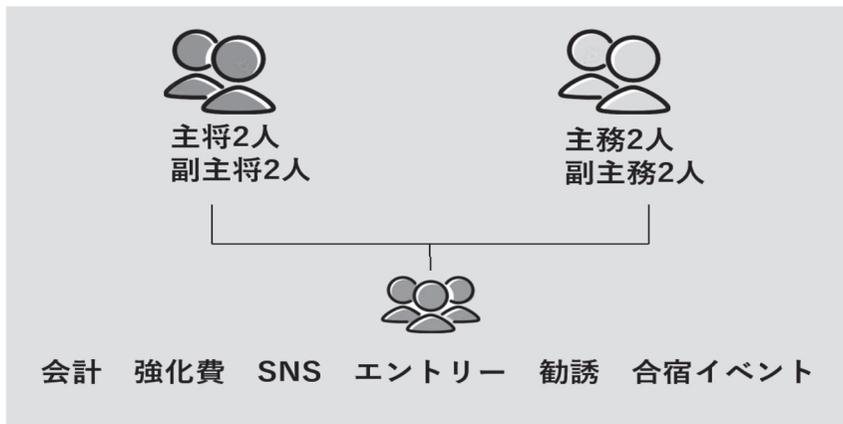


図2 2022年度 組織運営体制について

3-3 情報共有

本学は、すべての学生がMicrosoft社のoffice365を使用できることから、女子部員の連絡手段や情報共有の場をTeamsに統一した。情報を共有したいことを項目ごとにチャンネルを作り、情報を共有した。繰り返しの閲覧が可能で、添付したワードやエクセルなども随時更新でき、トレーニング・競技会動画も共有することができた。また、情報過多にならないために、情報をアップするのは1限目授業開始1時間前の8時からトレーニング最終時間21時から1時間後の22時までの掲載とした。共有した情報に対して、理解できたら、わかりましたなどの文字での返信ではなく、👍をクリックするようにした。さらに、筆者の研究室がこれまで、六甲アイランド体育施設内にあったが、本学の中心でもある岡本校地に9月に移動することができた。これまでは、SNSもしくはトレーニング中に女子部員から部や個々の報告・相談を受けていたが、双方の授業の合間などに研究室で聞くことができ、個別の面談もできるようになった。

3-4 情報発信について

女子陸上部としての情報発信としては、図4のとおりTwitter・Instagram・ホームページ・YouTubeを、それぞれの効果の特徴を把握・活かしながら運用している。競技会の成績や入学してきた一年生の紹介や地域貢献活動の告知などに加えて、トレーニングの様

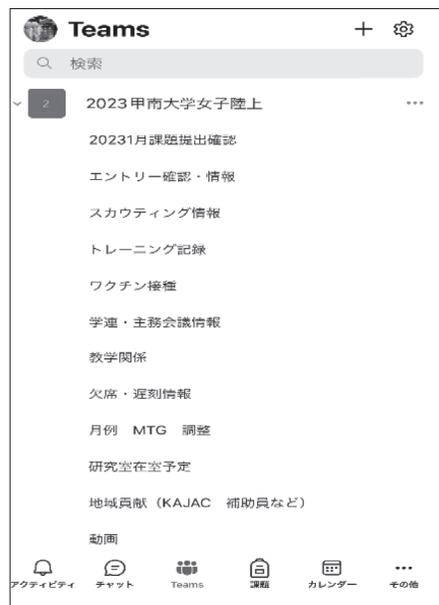


図3 teamsの活用例

子や実際に実施しているトレーニング内容を動画でもアップしている。特に、トレーニングの様子では、ただ、トレーニングの風景を掲載するのではなく、図5のように、女子部員の素顔が伝わるようなものを中心に掲載することを心がけている。また、Twitterは、当番制で毎日投稿を心掛け、投稿内容の工夫やリールやストーリー・DM機能などを有効活用した。まだ試験的であるが、YouTubeチャンネルを開設した。動画を発信することで、より幅広く、多くの人に知ってもらいたいというのが狙いでもある。



図4 女子陸上部の主な情報発信ツール（出典：女子陸上部 Twitter・HP・Instagram）



図5 日常風景（出典：女子陸上部 Twitter より）



図6 KJACの様様（出典：女子陸上部 Twitter より）

3-5 地域貢献

2019年度まで、小学校の年齢層を中心とした陸上教室ランナーズスクール（KONAN スポーツクラブ）を実施していた。女子部員には、学生指導員として企画・運営に参加してもらっていたが、2020・21年度とコロナ禍の影響もあり、ランナーズクラブの活動停止を余儀なくされた。このランナーズスクールは、2005年度から名称や実施内容を変えながら実施を続けていたが、この2年間のコロナ禍による活動停止を機に、女子部員とOGとで企画・運営する陸上教室開催を、学生部と相談しながら、今年度から名称も変更してKAJCとして開催した。KAJCの活動内容は、表6のとおりである。

表6 本学 KONAN スポーツ募集要項
KJAC (KONAN JUNIOR ATHLETE CLUBE)

対象者	うりぼーコース→幼稚園～小学校3年生 なんぼーコース→小学4～6年生 計20名（先着順）
経費	無料
講座内容	運動会で一等賞を取りたい人！ 陸上トラックで走ってみたい人など、走る事に興味のある方大歓迎です！
時間	9:30～10:45（予定）
講師	本学女子陸上部員、OG
保険加入	任意です。万が一、怪我をされた場合大学側は責任を負い兼ねますので、あらかじめご承知下さい。

3-6 実践発表

本学体育会リーダーズキャンプと本学のリサーチフェスタで、現在の女子陸上部の取り組みを発表した。

3-6-1 本学体育会リーダーズキャンプ

本学体育会本部主催イベント「第61回本学体育会リーダーズキャンプ」は各部活の主将と主務が一同に集まり、プログラムを通して幹部学生としての自覚を持ち、異なる競技のメンバーと価値観を共有し、横の繋がりを強くするイベントとされ、そのイベントで、現在の組織の在り方を女子陸上部として発表した。

3-6-2 本学リサーチフェスタ

本学のホームページでは、リサーチフェスタの位置付けを次のようにしている。専門知識を学ぶ講義に加

え、身につけた知識を活かす力を養うゼミや研究活動、インターンシップを行なっている。そこでは、フィールドワーク、アンケート調査、集計・解析、実験、観察、シンポジウムやワークショップの開催などを通じ、それまでに学んできた知識、教養を活用する経験を積めるような工夫が取り入れられ、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」などの能力要素を育成している。しかし、身につけたそれらの力は、試験を受けて習熟度を評価されず、また、可視化しにくい力でもあるため、皆さん自身もその力が身についたかどうか実感できていないのかもしれない。学部・学科、研究科、センターでも、身につけた力を実感できる場として、ゼミや卒業論文（修士論文）研究の発表会のような場が用意されている。しかし、社会に出ると、学部・学科、研究科、センターのような同じ考えや背景を持った人たちの前で話すことは少なく、年齢や国籍、考えが違う人たちとも議論し、協同して課題に向き合い、乗り越えていかねばならない。このリサーチフェスタでは、このような事情を鑑み、皆さんが身につけてきたその力を試し、さらに伸長できる場として、甲南大学の文系、理系を含む8学部4研究科、兵庫県を中心とした近隣の府県の高校生を一堂に会し、年齢や知識、発想が異なる集団で実施するプログラムとしている。ぜひ、これまでの学びを実践する目的として、また、社会に出るために必要な力がどのようなものかを知る機会として、多くの大学生、大学院生の皆さんに参加していただければと考えているとされている。残念ながら、女子陸上部の活動でもある正課外活動に関しては、一切触れられていない。日々の活動に関して、コロナ禍前よりも学生部などへの提出物を含めて事務作業が多くなっている現実を考え、女子陸上部としての取り組みを発表することで、日々の活動を学内外に知ってもらおうと共に、現状の再認識や女子陸上部以外の方々からの意見をいただくことで、よりよい女子陸上部になると考え、エントリーをしてもらった。リサーチフェスタでは、大学スポーツにおける学生主導の有効的な運営の取り組み例と、学生アスリートが活躍するための環境作り

についてをテーマとした。具体的には、今年度日本選手権 4 × 100m リレー優勝、2021 年東京五輪・陸上女子 4 × 100m リレーの日本代表選手として青山華依が出場するなど、数々の好成績を収めるために、リクルーティング、練習環境の整備、組織運営を女子部員主導で行い、実際に運営をする中で気付いた点や、学生・女性アスリートがより活動しやすい環境づくりの提言、改善点などを発表した。

4) まとめ

2020・21 年度はコロナの影響で、これまでの活動とは大きく異なるものになった。この期間、女子部員と試行錯誤しながら女子陸上部の運営をしてきた。2022 年度は、試行錯誤して築き上げた女子陸上部の活動を前向きに変化させたものとなった。競技成績に関しては、コロナの影響でいつ課外活動禁止になるかわからない状況が続く中、今回は、トレーニング内容までは触れないが、学内での課外活動禁止になっても学外でできる内容をピンポイントで実施した。その結果、表 4 のとおり、日本選手権 4 × 100m リレー優勝をはじめ、ショートスプリントを中心に結果を多く残せた。試合機会に恵まれなかった女子部員のモチベーションを含めた取り組みが 2023 年度以降の課題にはなるが、トレーニングの柱ができた 1 年であった。組織運営に関しては、コロナ禍前に課外活動団体として、これまで取り組んできた提出書類などに加えて、感染防止対策に関する提出物や日々の行動記録をまとめるなどの業務が増え、これに女子部員の本分である授業・課題・レポートなどがあり、従来の各役職 1 名体制では、とても対応ができない現状をみて、お互い気がついたらカバーをする幹部役職の複数名体制に変更した。まだ、スタートして 1 年が経過していないので、お互いをカバーするところが、初めての取り組みのため、どうしても従来の 1 名体制の流れに引き戻される傾向があるが、女子部員の多忙化・業務軽減のために粘り強く進めて行く必要があると考えている。その組織内の情報共有に関しては、筆者が本学陸上競技部にかかわらせていただいたときから、報告・連絡・

相談・共有を一番大切にし、徹底してきている。これは、女子部員同士はもちろん、筆者とも徹底してきている。初めころは、対面での対話、メールが中心であったが、近年は SNS を活用した方法へ変化して行った。その SNS であるが非常に便利な反面、既読こそわかるが、誰が未読で情報共有ができていないかが不明な点などが課題であった。そのような中、コロナ禍の情報共有ルールとして、ZOOM や Teams の活用がメディアなどで紹介されているのを目にした。本学の学生は、Microsoft 社の office365 が使えることから Teams の活用を調べたところ、女子陸上部の情報共有に活用できることが多くあることがわかった。特に、メッセージ機能で、これまでの課題としていた未読者が誰かがわかることができた。このことで、既読になっていない女子部員には、情報をメッセージで見るように伝えるか、対面の場でも同様の内容を伝えることで、部員同士の情報共有などにも責任が生まれ、よりコミュニケーションをとることができるようになった。また、メッセージ機能で、個別・グループ別での連絡が容易になったため、必要な情報を必要な人に伝えることができ、一人一人が女子陸上部の活動を把握することができ女子陸上部の一員だという自覚を持つことができ意識も高まり、女子部員同士や筆者との間にも、信頼が生まれ始めた。このメッセージ機能は、全体・グループ・個別と設定できることから、情報過多になることをふせげ、女子部員といえどもつながらない権利を考え、活用時間帯もルールとして決めることで、個々のプライベートの時間を大切にすることが可能となった。情報発信は、特に、スカウティングになるが、コロナ禍の影響もあり、競技会を含めて、高校関係者などとの対面で話をする機会などが激減したことを受けて、SNS を活用した情報発信に力を入れるようにしてきた。今年度は、高校関係者と対面で話をする機会が増えたが、SNS の情報発信を今まで以上に力を入れた。特に、日常の女子部員の様子がわかるように、文字よりも動画・画像を中心に工夫をした。また、高校生がどの SNS のツールを利用するかも考え、その結果、興味を持ってくれる人が増え、フォロー

の数が急増し、保護者をはじめ、女子部員のこれまでの恩師の先生から明るく楽しい学生生活が送れていることがわかると好評をいただき、さらに、本学に進学を考えている高校生・保護者の方からも同様に、女子陸上部の雰囲気がよく伝わり進路決定の大きなウェイトを占めていることがわかった。その結果、可能な限りメディア対応をすることによって、情報発信にもつながると考えた。特に、アスリートチャンネルには、表7のとおり多くとりあげていただき、女子陸上部の良さを広く世間に広めていただいた。その一方、コメント欄がオフになっていないこともあり、一部、心無いコメントがあり、女子部員にマイナスになったのも事実である。そのアスリートチャンネルは、ホームページで、次のように説明されている。「アスリートチャンネル」は、読売テレビのスポーツ番組「アスリート」（毎週土曜 11:35～放送）から立ち上がった関西のアスリートの情報が詰まったオリジナル動画サービス

で、読売テレビと rtv が共同で運営する「アスリートチャンネル」では、アスリートたちのインタビュー動画やライブ配信動画など“他のメディアでは見られないオリジナルコンテンツ”をお届けする。陸上競技に関しては、5月の関西インカレ、9月の日本インカレ、関西学生対校女子駅伝、11月には丹後大学駅伝など、関西の学生陸上を中心に大会のライブ配信、さらに、地上波の「アスリート」（毎週土曜ひる 11時35分放送）、「アスリート Plus」（毎週日曜朝インタビュー番組予告編ショートムービー、また、ユニ取材でも全日本実業団、日本グランプリシリーズ、新人戦など各大会のレース動画をアップしてきたとされている。2022年、You-Tube の【公式】アスリートチャンネルにアップされたライブ配信のアーカイブ含む陸上競技の動画は208本（2022/12/20時点）で、その上位20位までの視聴回数の中で、女子陸上部に関係するものが10あった。このように多く取り上げていただく一方、学

表7 YouTube「公式」アスリートチャンネル配信視聴回数上位20位

視聴回数	放送タイトル名
1	165.4万回視聴【ノーカット版】 不破聖衣来 ケガからの復活V！ 第91回日本インカレ 女子10000m決勝
②	31.6万回視聴 第1日目トラック競技【天皇賜盃 第91回日本インカレ】
③	22.8万回視聴 第3日目トラック競技【天皇賜盃 第91回日本インカレ】
④	21.1万回視聴 第2日目トラック競技【天皇賜盃 第91回日本インカレ】
⑤	20.2万回視聴【学生陸上個人選手権】青山華依（甲南大）が100m 決勝もライバルに圧勝！「タイムが良すぎて逆に心配です」
⑥	18.6万回視聴【室内陸上日本選手権】女子60m予選で青山華依（甲南大）が2年連続の大会記録更新！そして決勝でも…！ハナエのシーズンが始まる。
7	18.5万回視聴【静岡国際グランプリ】女子800mは同期生が直接対決！ 田中希実、塩見綾乃、川田朱夏、後藤夢 ロングスパートが炸裂して…?
8	15.7万回視聴【日本インカレ】山本有真 強さを証明！最後の駅伝シーズンへ女子5000m 決勝
9	15.6万回視聴【日本インカレ】女子4×400mリレー 立命館大学が連覇達成！！
10	11.8万回視聴【日本インカレ】<優勝インタビュー> 女子10000m 不破聖衣来 復帰戦ぶっちぎりV！
⑪	11.2万回視聴【静岡国際陸上グランプリ】必見！レース後のリアクション 女子200mで青山華依（甲南大）と壹岐あいこ（立命館大）が自己ベストを更新！
⑫	9.3万回視聴【布勢スプリント2022】女子100m決勝 日本選手権チャンピオンの君島愛梨沙が優勝！
⑬	9.2万回視聴【西日本インカレ 女子4×100m決勝】立命、甲南、園田女子がふたたびバトル！大会新記録44秒99で優勝したのはどの大学？！
14	8.9万回視聴【日本インカレ】近藤幸太郎 青山学院のエースが連覇達成！ 男子5000m 決勝
15	8.6万回視聴【日本インカレ】第2日目 女子三段跳
16	8.4万回視聴【Sprint 50 Challenge in 伊丹】坂井隆一郎（大阪ガス）が世界新記録！ Sprint 50 Challenge で桐生超えの5秒84
⑰	7.4万回視聴【西日本インカレ女子100m】オレゴン世界陸上代表選出の青山華依（甲南大）が優勝！関西勢が表彰台独占
18	7.1万回視聴 【関西インカレ】第1日目 / 女子・棒高跳【98回関西学生陸上競技対校選手権大会】
⑱	6.7万回視聴【学生陸上個人選手権】青山華依（甲南大）が100m準決勝で11秒47 大会新！
20	6.5万回視聴【Sprint 50 Challenge in 伊丹】多田修平（住友電工）が50m走にチャレンジ！ ちょっと悔しい…5秒95

数字に○は、本学女子陸上部が関係するもの

表 8 本学の主な公式情報発信ツール

名 称	管理・運営先	女子陸上部関係
甲南大学	甲南大学の公式アカウント	5 回紹介
甲南倶楽部	甲南大学のクラブ（体育会・文化会）情報ポータル	272 報告 掲載していない
甲南スポーツ	甲南大学学生部、甲南学園スポーツ強化支援室が管理する【KONAN スポーツ応援プロジェクト】の【公式】アカウント。Instagram	全 43 掲載 女子陸上部に関係するものは 6 掲載。
甲南大学 甲南スポーツ	甲南大学の学生部が管理するページ Facebook	全 42 掲載女子陸上部に関するものは 5 掲載
甲南学園広報部	甲南学園広報部公式 Twitter	2019 年 10 月 19 日以降更新なし
甲南大学 学生部 「KONAN スポーツ 応援プロジェクト」	甲南大学学生部公式 Twitter	2019 年 5 月 5 日以降更新なし

園・本学に目をむけると、表 8 のとおり、部員の情報発信とは異なり、本学園公式の広報部・本学学生部「KONAN スポーツ応援プロジェクト」の Twitter はともに、2019 年度に更新されたのが最後に更新されていない。他のツールでも、スポーツに関する部署の情報発信があまり実施されていない。女子部員などが義務付けられている本学学生部への毎試合ごとの戦績報告をした回数から考えると驚くほど少ないものであった。そのため、自ら発信してもらい、女子陸上部として足りないところを知るために、リサーチフェスタにも参加した。今後、女子部員の頑張りをもっと情報発信をしていただくことで女子部員・体育会学生のモチベーションにつながると考える。

2018 年度女子陸上部創部と同時に OG 会を立ち上げた。ゼロからスタートした組織のため、試行錯誤が今も続いている。そのような中、女子部員と卒業生をつなぐことを目的の一つに、コロナ禍前まで、筆者が中心で実施していた陸上教室ランナーズスクールを、女子部員と卒業生が企画・運営にする新たな陸上教室 KAJC に変更した。開始初年度ということもあり、手探りの状況であるが、創意工夫をした手作り感があり、いいスタートを切ったと感じている。一方、2010 年度にできた六甲アイランド体育施設の 400m トラックは、経年劣化がはじまり、サーフェスの凹凸が放置され危険な状態である。また、近年の気温上昇・ゲリラ豪雨などに対応できるスペースが全くなく、避雷針も設置されていない。このことは、学園に訴え続けていることのため、女子部員の安全のため、施設改善を至急検討していただきたいと考える。このようなことを

含め、体育・スポーツに対して安全面を含めた知見を取り入れている大学と本学の場合、考えが異なるところがある。筆者は、教育基本法における大学の基本的役割でものべられているとおり、大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとするとしている（教育基本法第 7 条第 1 項）改正法（平成 18 年法律第 120 号）を大切にしたいと考える。学生中心の課外活動も大切だと考えるが、これは施設設置者が安全面などを整えた環境が必須だと考える。更に、筆者は、研究活動として、筆者の経験・学びを提供しながら、新たなコーチングを実践している。そのため、それができる短距離種目に特化している。この考えは、体育系の大学などではごく当たり前であるが、これに対して、否定的な考えを言われる方が学内にいるが、教育基本法における大学の基本的役割だと考え、3 年前からは、より専門性を高め、コーチング研究をするため、100・200m により特化したスカウティング活動をおこなった。その結果、表 4 のように学生 20 人に 100m 3 名・200m 6 名が入ってくるようになった。もちろん、100・200m 以外の種目を専門としている学生には、無条件で入部・活動していることを付け加えさせていただく。このような知見を積み重ねて、新たな女子スポーツの在り方やトレーニング方法につながればと考えている。

最後に

2018年度より女子陸上部として活動が開始した。まだ、組織として手探りの状況下、常に親身になって接して下さっている本学園スポーツ強化支援室の松岡・松尾様、前スポーツ強化支援室課長の中村様、そして、女子陸上部の卒業生で経営学部事務室の西尾様らのおかげで、女子部員は、日々成長しながら活動できていることを、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

参考引用

月刊陸上競技(2022) 月刊陸上競技 12月号 月刊陸上競技社・講談社 p.226

伊東浩司(2020) 課外活動禁止期間におけるトレーニング環境に対する影響について 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター紀要第23号 pp.1-16
解説教育六法編集委員会 教育六法 2020 令和2年度版 三省堂 2020年2月 p.41-42

甲南大学 第61回甲南大学体育会リーダーズキャンプ <https://www.konan-u.ac.jp/news/archives/40091> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学 甲南大学 <https://twitter.com/konandaigaku> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学 甲南大学リサーチフェスタ <https://ch.konan-u.ac.jp/festa/> (情報取得 2023年1月8日)

甲南大学 甲南倶楽部 <https://www.konan-u.ac.jp/club/> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学学生部 甲南大学甲南スポーツ <https://www.facebook.com/konan.sports/> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学学生部、甲南学園スポーツ強化支援室「甲南スポーツ」 <https://www.instagram.com/konan.sports/?hl=ja> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学学生部「KONANスポーツ応援プロジェクト」 https://twitter.com/sports_ouentour (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「部員の日常風景」 https://twitter.com/Konan_univTF/

[status/1610258736966434816/photo/1](https://twitter.com/Konan_univTF/status/1610258736966434816/photo/1) (情報取得 2023年1月3日)

甲南大学女子陸上競技部「神戸マラソン補助員」 https://twitter.com/Konan_univTF/status/1594133228738482180/photo/1 (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「甲南大学女子陸上競技部」 <https://konan-univtf.wixsite.com/konanuniv/> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「甲南大学女子陸上競技部」 <https://konan-univtf.wixsite.com/konanuniv> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「甲南大学女子陸上競技部」 https://www.instagram.com/konan_univtf/?igshid=7tlhfwcvxqjv (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「甲南大学女子陸上競技部」 <https://www.youtube.com/@user-gv9oy8to5d> (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「KAJC募集について」 https://twitter.com/Konan_univTF (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「KJACのお知らせについて」 https://twitter.com/Konan_univTF/status/1579381951911559168/photo/1 (情報取得 2023年1月14日)

甲南大学女子陸上競技部「KJACの様子 2022年11月24日」 https://twitter.com/Konan_univTF/status/1595766342132838400 (情報取得 2023年1月3日)

甲南大学女子陸上競技部「日本選手権リレーの表彰式」 https://twitter.com/Konan_univTF/status/1576493992593993729 (情報取得 2023年1月3日)

甲南学園「甲南学園広報部」 <https://twitter.com/konankoho> (情報取得 2023年1月14日)

日刊スポーツ「100メートル高校女王・蔵重みう、甲

南大進学 元日本記録保持者で同大教授の伊東浩
司氏に師事 [https://www.nikkansports.com/sports/
athletics/news/202211040000060.html](https://www.nikkansports.com/sports/athletics/news/202211040000060.html) (情報取得
2023 年 1 月 14 日)

東洋経済 on-line 「休日連絡 NG、つながらない権利ど
こまで主張可能？」
<https://toyokeizai.net/articles/-/477943> (情報取得
2023 年 1 月 14 日)

読売テレビ放送株式会社「YouTube【公式】あすリー
トチャンネル」
https://www.youtube.com/@athlete_ytv/about
(情報取得 2023 年 1 月 14 日)

読売テレビ放送株式会社「あすリートチャンネル陸上」
<https://ytv-athlete.jp/athletics/25717> (情報取得
2023 年 1 月 14 日)